

令和元年度第2回花巻市行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

令和元年7月24日（水） 午後3時30分～午後5時00分

2 開催場所

生涯学園都市会館 3階第4学習室

3 出席者

(1) 委員 5名

細川祥委員（部会長）、鎌倉公順委員、高橋勉委員、伊藤蓉子委員、佐藤洋子委員
（欠席：上田直輝委員）

(2) 説明者（施策主管課） 1名

こども課：今井岳彦課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課：赤坂秀樹課長補佐、瀬川千香子企画調整係長

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「家庭の教育力向上」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

鎌倉公順委員：就学前教育振興会議について、年度当初と年度末に2回だけの開催で、その間何もなく、進捗状況の確認が必要だということで、今年は3回に増やしてもらった。集まるのは大変だと思うが、色々な取り組みを推進させる意味では、回数を増やして、状況確認を行わないとならないと思う。年度末まで何もないと、年度末まで取り組みがずれこむ、ということもあり得るので、進捗状況を確認しながら、進めていくことが必要と感じる。

今井岳彦課長：昨年は2回開催したが、せっかく集まっていた会議を活用するという点について準備不足であった。情報共有であれば資料送付だけでも良い。集まっていたので、回数も含め、会議のあり方について検討する。

鎌倉公順委員：「テレビ視聴・ゲーム利用のルールを守ろう」について、なぜルールを守らなければいけないのか、ルールを守らないことによる弊害を前面に出し、家庭でルールを決めることで、自主的にやっついていかないと子どもリスクを背負わせるということを保護者に伝えていかないと、達成率は上がらない。

今井岳彦課長：ひとり親家庭は子育ての一部として、メディアを使わざるを得ない状況もあるが、このチャレンジに取り組んでほしい層にどう伝えていくか課題。市のホームページや広報による情報、すでに取り組んでいる人は良いが、これから取り組んでほしい層に、どうやってルールを守る必要性を伝えるかが難しい。

鎌倉公順委員：ターゲット層が市のホームページを自ら見に行くか、と言われると期待できない。各園で直接やっているブログやLINEグループで情報提供するという形でないと、情報が届かない。

伊藤蓉子委員：子育て講演会は、市内の全ての幼稚園・保育園に呼び掛けてどのくらいの参加者があったのか。

今井岳彦課長：昨年度は400人程度が参加した。来場者のほとんどは保育関係者（保育士）であり、メインターゲットにしている保護者の参加は少なかった。保育園が休みになる日曜日の開催では、保護者も休みたいという気持ちになるので、そもそもの講演会のあり方も考えていかなければならない。行政から話しても伝えきれない、伝わりにくいこともあると思うので、今後、保護者が実際に体験した、テレビ・ゲーム利用の弊害について、保護者会の中で話をしてもらおうといったこともできないか検討していく。

鎌倉公順委員：各園に動画を配信し、保護者会の中で、講演会を見せる時間を作ってもらおうという方法もある。来てほしい保護者が集まりそうなのは、幼稚園・保育園の集まりしかない。園でも協議する議題はあるが、伝えたいことがあるならば、協力してもらって、実際に動画を見てもらう働きかけも必要である。

佐藤洋子委員：「1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組」に記載のある、「就学前教育」という表現は、学校入学前に勉強させるものという印象を受ける。就学前教育振興会議の議題として「家庭教育力の向上」となると家庭で、国語や算数など学校教育でやることを教えるのか、ということにも読める。

今井岳彦課長：就学前教育振興会議では、計画説明や事業説明などを行っているので、会議で決まった内容を、そのまま家庭に下ろして行ってもらうというものではない。また、就学前教育については、毎年就学前教育推進計画を立てており、計画する取り組みの中に、「ニコニコチャレンジ」や「ニコニコ先生体験事業」が入ってくる。家庭で勉強を教えるということではない。

佐藤洋子委員：「家庭の教育力向上」ではなく「一般的生活習慣の正しい身につせ方」といったような柔らかい言い回しの方が良いように思う。

鎌倉公順委員：「教育」という語句は固さを感じ、また「お勉強」であるという意味合いにとられる可能性がある。

高橋勉委員：「しつけをする」ということに関していえば、家庭だけではなく地域の集団の中で育てるという視点もある。

今井岳彦課長：地域で子どもを見るという視点は大事。利害関係のない第三者とのかかわりや、地域の同級生全体などのつながりなど、昔はそうした教育もされていたが、今は難しい。社会教育は生涯学習などと連携した意識啓発も必要であり、この施策

だけでは狭いと感じている。

鎌倉公順委員：「ニコニコチャレンジ」は年何回実施しているか。

今井岳彦課長：年2回、6月～7月と11月～12月に行っている。

鎌倉公順委員：お父さん、お母さん、兄弟の欄も作って、家族でチャレンジするのはどうか。親の生活習慣もチェックするもの。必要に応じて兄弟の欄も作るなど。

今井岳彦課長：ひとり親家庭もあり、親も取り組むことはデリケートな問題である。家族が取り組むというのはいいと思うので、間に合えば11月期の「ニコニコチャレンジ」に予定を組みたい。

鎌倉公順委員：幼稚園・保育園の方が取り組んでくれる。小中学校になると取り組んでくれなくなると思うが、どうか。

今井岳彦課長：就学前の時期が重要であると考えている。

高橋勉委員：取組をしている率が伸びているかを観察することも大切。

今井岳彦課長：取り組む項目が多いのではないか、という指摘もある。項目によって定着度合にばらつきがあるため、定着が進んだ項目は外すなどの検討もしている。

鎌倉公順委員：全体的には、虫歯が減っているが、虫歯のある子は虫歯の数が多く、その親も、虫歯の数が多傾向がある。

今井岳彦課長：虫歯からネグレクト（育児放棄）につながる可能性がある。意識啓発につなげていく。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

- 「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

鎌倉公順委員：「ニコニコチャレンジ」に取り組む保護者は、楽な取組を選ぶのではないか。

細川祥委員：「検討する」という目標に対して、十分に検討されているかどうかという点は、施策評価シートからは伝わらない。検討した内容が記載されていないのは、説得力に欠けるということ。検討した結果や状況に具体的に記載する必要があるのではないか、という点を指摘する。

- 「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

細川祥委員：取り組む項目に偏りがある、としているが、その対策については示されていない。成果向上のため、実施内容の工夫の必要性について記載が必要である。また、成果の向上を図るべき事業として、「ニコニコチャレンジ」が実施期間である2週間で終わってしまわないよう、継続して取り組む工夫をするという視点が必要。

鎌倉公順委員：「新たに取り組むべき事業」が「なし」ではなく、現行の事業をもっと充実させていくという言い方が良いと思う。

●「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

高橋勉委員：どの数値が上がっているのかわからない。

細川祥委員：なぜこの判定になったのか、具体的に表現してもらわないと、どこの数値を根拠にしてした理由としては弱い。

鎌倉公順委員：成果指標の実績値は前年度比で向上しているが、2週間の「ニコニコチャレンジ」の結果だけで評価し、基本的な生活習慣が身についた子どもが多い、としている。しかし、その期間外にも継続して取り組み、最終的に基本的な生活習慣が定着したかはわからず、根拠がない。

細川祥委員：項目ごとの記載内容に隔たりがある。平成30年度の成果指標の実績値では、79.2%が基本的な生活習慣が身についているとしながら、「6 施策の総合的な評価」では「テレビ視聴・ゲーム利用のルール」の定着については6割にとどまるとしており、相対的なアンケート結果を信頼してよいものかどうかかわからない。

高橋勉委員：全体の底上げが必要ではないか。

細川祥委員：成果指標の数値が上がっている理由や、事業効果が表れていると判断した理由について、もう少し具体的な記述が必要な点、成果指標の実績値は上がっているが、「ニコニコチャレンジ」による効果かどうか断定してよいかの根拠が明確でないため、もう少し詳細な分析が必要、という点について指摘する。

●「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

細川祥委員：課題については、2週間の取り組みは行うが、その後続いているかどうか、という点が出されていた。

鎌倉公順委員：2週間だから取り組んでもらえるということもあると思う。

細川祥委員：施策の目指す姿である「子どもが基本的な生活習慣を身に付けています」を達成するには、どう取り組むかという視点で、課題をとらえるべきではないか。

●「シート記載内容全般について」

細川祥委員：施策評価シートを見ながら、実際に説明を聞くと理解・納得できる部分も多いので、もう少し施策評価シートへの詳しい記載が必要である。